

『一色夫妻の素敵な馴れ初め』

※実際に収録されたものとは一部セリフが異なる可能性があります

【登場人物】

◆一色 奏（いっしき かなで）

三十五歳

180 cm 85 kg

某商社の御曹司で、部長。

自分を魅力的に見せる方法をよく心得ている、笑顔のサイコパス。

厳しい両親に育てられたために、外面を取り繕うのが上手い。頼りがいのある人物として、上司からは頼られ、部下からは慕われている。

はたから見れば順風満帆な人生にどこか空しさを感じていたところ、部下の日下部から見せてもらったヒロインの写真を見て一目惚れ。運命の人だと思い込む。

もちろんヒロインにとっても自分は運命の人なので、ヒロインの抵抗は「間違い」であり、その過ちを正す事ができると信じている。

◆日下部 潤一（くさかべ じゅんいち）
二十六歳

180 cm 75 kg

某商社に務める主任。

朗らかで優しい性格だが打たれ弱く、頼りないのが玉に瑕。同棲中のヒロインとの結婚が決まり幸せな毎日を送っていたが、ある日、ヒロインの写真を一色に見せたことにより運命が狂い出す。

どこまでも普通の人。

◆ヒロイン

産まれと育ちが不幸ゆえ、他人の顔色をうかがう部分があり、厄介な人間を引きつける体質。毒親家庭で育ったため、優しい人と仲のいい家庭を築くのが昔からの夢だった。

日下部はこんな自分に優しくしてくれた唯一の人。

ある日、家に帰ろうとしていたところを一色によって突然拉致され、山奥の屋敷に監禁されてしまう。前撮りも式場の予約も終わって招待状も出していたのに、そのすべてを無視され、話の通じない狂人から「君と僕は、互いに運命の人なんだよ」と言い聞かされる毎を送る羽目に。

最終的には脳がバグって「こんなに求めてもらって嬉しい♡」になる。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33

●トラック1 出会い

2 婚約者と電話で話していたヒロインが突然さらわれる導入ト
3 ラック。

5 場所…夜道

7 【ヒロインが一人で帰路についているところに、婚約者の日
8 下部から電話がかかってくる。同棲しているヒロインに、帰
9 りが遅くなることを申し訳なさそうに伝える】

11 SE…電話の着信音

13 【3】

14 日下部【少し慌てて】あ、もしもし？

15 俺だけど…ごめん、

16 出張がちよっと長引くことになっちゃって。

17 部長が突然、ど田舎にある取引先に

18 挨拶に行行って連絡してきてさ。

19 しかもアポが明日の夜で…

20 ほんごめん！

21 結婚式の準備、一緒にやろうって言ったのに…」

23 日下部「二日後には、絶対に帰るから！

24 あと、有休も絶対もらうから！

25 二人でさ…一緒に、いろんなこと決めてこう。

26 あ、ごめん！もう切らなきや！

27 また電話するよ。愛してる——未来の日下部さん」

29 SE…電話切れる

30
31
32

1 【一色、突然ヒロインの背後に立っている】

2
3 【13】

4 一色「こんばんは、花嫁さん」

5
6 【日下部、ヒロインの首にペン型注射器を突き刺す】

7
8 SE…プシュっという小さめの射出音

9 SE…ヒロインがくずおれる

10
11 【一色、倒れそうになるヒロインを抱きとめる】

12
13 【1】

14 一色「おっと…：危ない危ない。」

15 頭を打ったら大変だ。

16 まだ意識ある？

17 んー…：お薬の分量、ちよっと少なかったかな？

18 でも大丈夫、すぐにぐっすり眠れるから」

19
20 一色「怖がらないで。」

21 君を迎えに来ただけだから。

22 日下部君なんかよりずっと君にふさわしい、

23 運命の王子様が、ね♡」

24

25

26

27

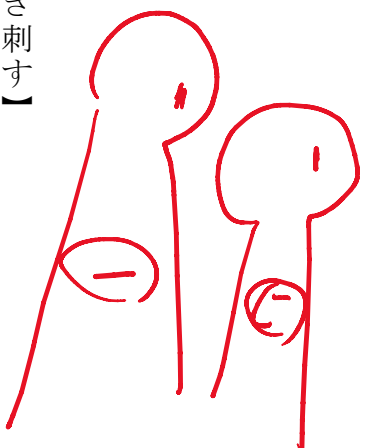
28

29

30

31

32



●トラック2 結婚式

見知らぬ場所で目覚めたヒロイン。
目の前には見知らぬ男（一色）がいて、いきなり結婚の宣誓
を始める。戸惑うヒロインは、恐怖のあまり一色の言いなり
になって邪悪な結婚式に臨む。

場所…チャペル

時間帯…不明

SE…結婚行進曲



【一式、椅子に拘束されているヒロインの正面に立っている】

【1 やや上から】

一色「私、一色 奏は、病める時も健やかなる時も
汝を愛すると誓います」

一色「……さあ、次は君が誓いの言葉を言う番だよ、
僕の花嫁さん♡」

【ヒロイン目が覚めたら突然見知らぬ男との結婚式が始まっ
ていて混乱する】

一色「あっは♪ ビックリしてる。かーわいい」

【ヒロイン「あなた誰ですか!?!」】

SE…ヒロインが身じろぎする衣擦れ

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

1 【1 やや上から】

2 一色「嬉しそうに」うん、そうだよね。

3 僕が誰なのか、気になるよね。

4 初めまして。

5 僕は一色 奏。三十五歳。乙女座のAB型。

6 君の運命の相手だよ♡」

7

8 一色「目が覚めたら、いきなり運命の人との結婚式なんて、

9 とつてもロマンチックでしょ？

10 サプライズ大成功、だね♡」

11

12 【ヒロイン、慌てて椅子から立ち上がろうとする】

13

SE: 椅子ガタガタ

14

15 一色「ああ、待って待って！

16 無理に立ち上がろうとしなくて大丈夫。

17 つていうか、立ち上がれないでしょ？

18 眠ってる君が椅子から落ちないように、

19 体をしっかり固定してあるんだ。

20 でも、安心して。

21 写真映えするように、固定用のベルトも

22 ウェディングドレスに合わせたデザインで

23 特注したんだ♡」

24

25 【ヒロイン、拘束されていることに気づいて愕然とする】

26

27 一色「ほら、見て。」

28 【1 やや上から】

29 一色「ほら、見て。」 顔がけっしょん

30 そこに鏡があるでしょ？

31 世界で一番きれいな花嫁さんと、

32 世界で一番幸せな花婿が映ってる」

33

1 【1 やや上から】

2 一色「このドレス、覚えてる？」

3 君が最初を選んでだけど、

4 高すぎるってあきらめたドレスだよ。

5 よく似合ってたから、買い取っちゃった。

6 君にこのドレスを着せてる時、

7 僕は心から、産まれてきてよかったって思ったんだ」

8 一色「じゃあ結婚式の記念に一枚……」

9 一色「じゃあ結婚式の記念に一枚……」

10 SE:衣擦れ

11 【3】

12 一色「カメラ見て、笑って♡」

13 SE:シャッター音

14 【カメラを見ながら】

15 一色「あはは！ 全然上手に笑えてないじゃない。

16 かわいい写真。また宝物が増えちゃった。

17 ああ、楽しみだな……。

18 僕らがおじいちゃんとおばあちゃんになったころ、

19 この写真を見返して、二人でのんびり笑うんだ」

20 【ヒロイン「わけがわからない」】

21 【3 ヒロインを見て】

22 一色「混乱してる？

23 わかるよ。

24 幸せすぎて訳がわからないって気持ち。

25 僕もそうだから」



1
2 【ヒロイン、「誰かと間違えてる」と訴える】

3
4 【2】

5 一色「人違いなんてしてないよ。」

6 君を誰かと間違えるなんて、ありえない。

7 君のことを知ってから、この日まで、

8 一年かけてずうつと準備してきたんだ」

9
10 一色「誰にも邪魔されない、

11 静かな森の中の小さなチャペルで、

12 誰も呼ばない二人きりの結婚式……

13 そういう結婚式が夢だったんだよね？

14 ここは、まさにそういう場所だ。」

15 君のために用意した、君と僕だけの森とチャペル。

16 ね、嬉しい？」

17
18 【一色、再びヒロインの正面に立つ】

19
20 【2→1やや上から】

21 一色「さあ、結婚式を続けよう。

22 君の誓いの言葉からだよ。

23 そして僕たちは、永遠の愛を誓うキスをするんだ」

24
25 【ヒロイン「助けて」と泣き出す】

26
27 【一色、泣いてるヒロインの顔をのぞき込む】

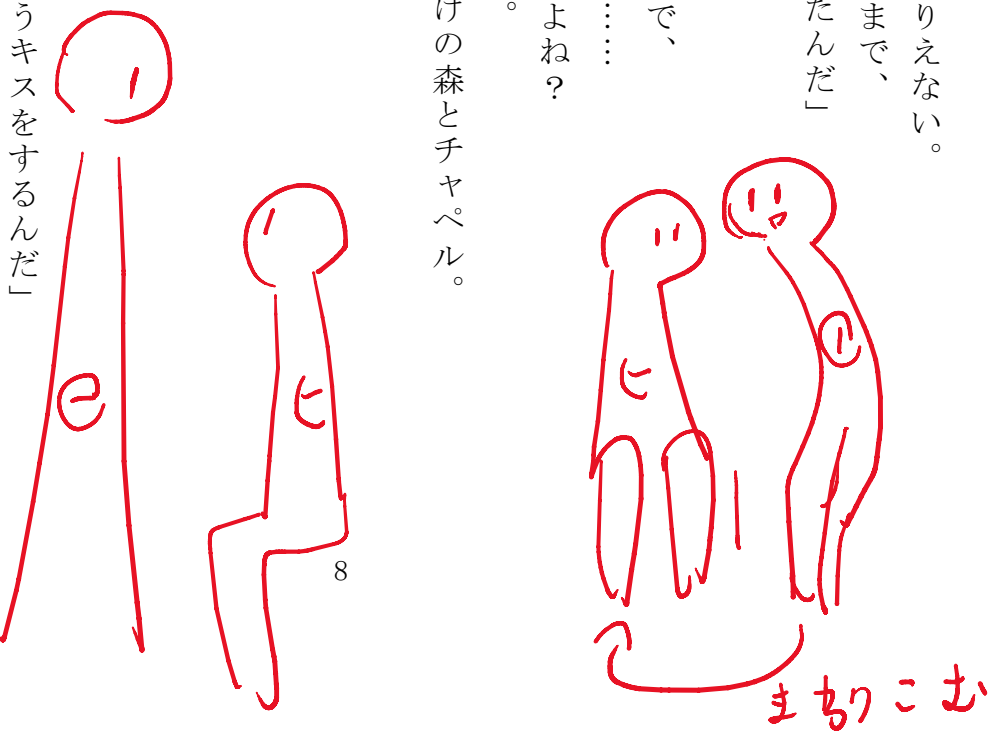
28
29 【1】

30 一色「【いとおしそうに】泣いちゃうくらい、感動した？

31 嬉しいな……ようやく君を助けてあげられる。

32 君を苦しめるすべての事から、守ってあげられる。

33 これから先、ずっと、ずーっとね」



1
2
3
4 【1】
5 一色「さあ、誓って。」

6 僕の奥さんになるって。

7 どんな時でも僕に永遠の愛を誓うって、そう言っ

8 て、

9 【ヒロイン、言えない】

10
11 一色「本当に、君は恥ずかしがり屋さんだな。

12 いいよ、口に出さなくても聞こえてる。

13 奏君、愛してるって、

14 ちゃんと僕には聞こえてるから」

15
16 一色「じゃあ、誓いのキス……ね？

17 ほら、目を閉じて」

18
19 【一式、ヒロインの唇に優しくキスをする】

20
21 一色「これで、僕たちは夫婦だ。

22 帰ろう。君と僕だけの家に」

23

24

25

26

27

28

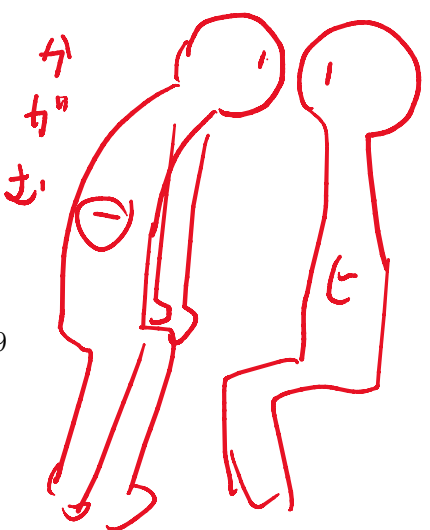
29

30

31

32

33



●トラック3 スイートホーム

結婚式後、新居に移動する二人。

一色がいかにヒロインに献身的な男かをアピールする

場所…一軒家

時間帯…夜

【新居に帰宅する二人。一色がドアを開け、ヒロインを中心に招き入れる。ヒロインは引き続きハイヒール&ウェディングドレス姿のため、逃げることもできずに従う】

SE…扉開閉

【7 腰を抱く距離】

一色「【ウキウキと】ただいまー！」

そして、ようこそ僕たちだけの新居へ【首筋にキス】

一色「素敵な家でしょ？」

君が夢見てた通りの家にしたんだ。

ここが玄関ホールで、二階が僕らの主寝室と、僕の書斎。

一階には、ダイニングキッチンとバスルームとリビングがある」

一色「あ、そっか。そのハイヒール……」

自分じゃ脱げないよね。

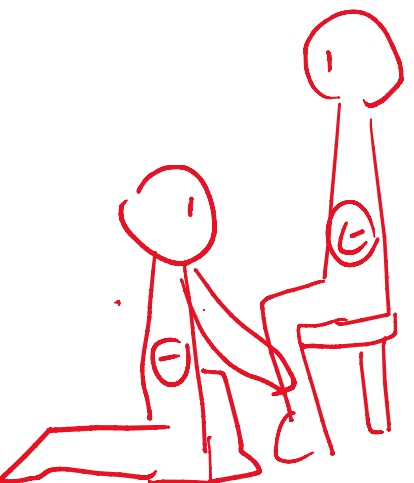
その椅子に座って。僕が脱がしてあげるから」

SE…衣擦れ

SE…ハイヒールを脱がす



視線だけあちこち動かす



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

1 【1 足元にひざまずく距離】
2 一色「ん。これで良し。

3 ……きれいな足だな。
4 食べちゃいたい【足にキス】

5
6 【ヒロイン、怯える】

7
8 SE…衣擦れ

9
10 一色「照れてるの？ かわいい♡
11 お楽しみは後でたっぷり…ね？」

12
13 【一色、立ち上がってヒロインに手を差し伸べる】

14
15 SE…立ち上がる衣擦れ

16
17 【1 やや上から】

18 一色「さあ、お手をどうぞ、お姫様。
19 姫さまのお城をご案内いたします」
20

21 【大人しく従うヒロイン】

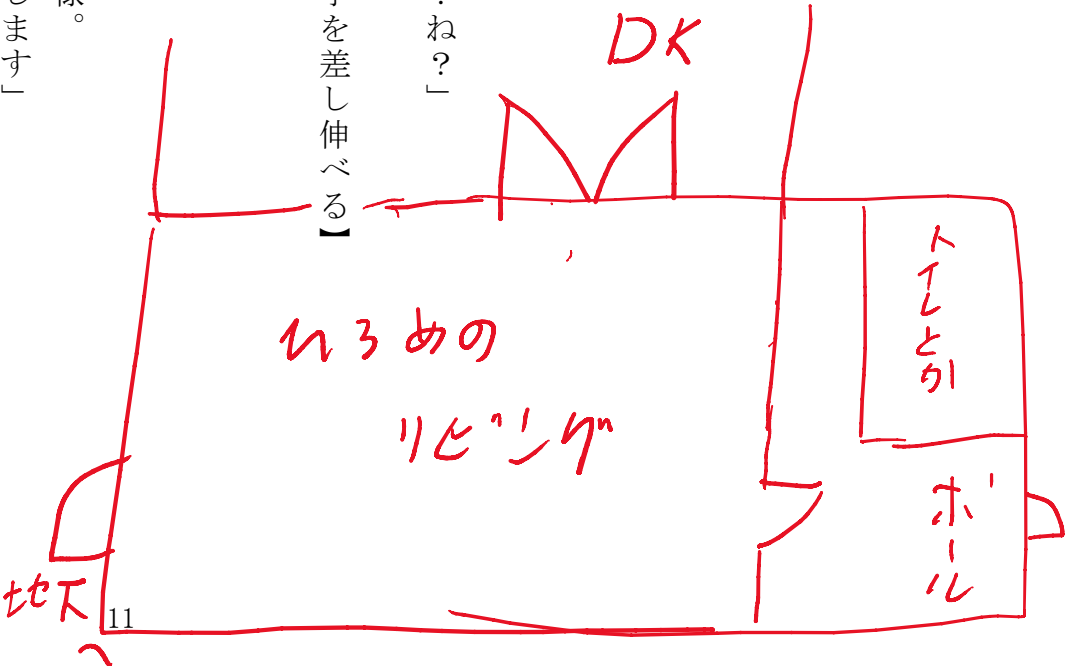
22
23 SE…衣擦れ

24 SE…二人分の足音

25
26 【一色、ヒロインの手を引きながら先導する】

27
28 【2 ヒロインに背を向け】

29 一色「まずはリビングから案内させて。
30 君が寝室の次に長い時間を過ごす場所だから、
31 結構こだわったんだ。
32 ——ほら、見て」
33



1 SE…扉が開く

2

3

4 【1 振り向き】

5 一色「世界で一番素敵な君の思い出を、
6 たくさん飾ることにしたんだ」

7

8 【一色、ヒロインの手を引いてリビングの中央へ】

9

10 SE…二人分の足音

11

12 【一色、ヒロインの手を放し、16と10の間をうろろうろし
13 ながらリビングを解説する】

14

15 SE…足音一色の動きにあわせる

16

17 一色「これは、お風呂上がり歯を磨いてる君の写真。

18 こっちは、最高にカワイイ君の寝顔の写真。

19 それから、近所のカフェで友達とお茶をする、

20 絵画みたいに素敵な君と——」

21

22 【13 ヒロインの背中から】

23 一色「あ、やっぱりその写真が気になった？」

24

25 SE…近づいてくる足音

26

27 【4 ヒロインの背中から耳元に】

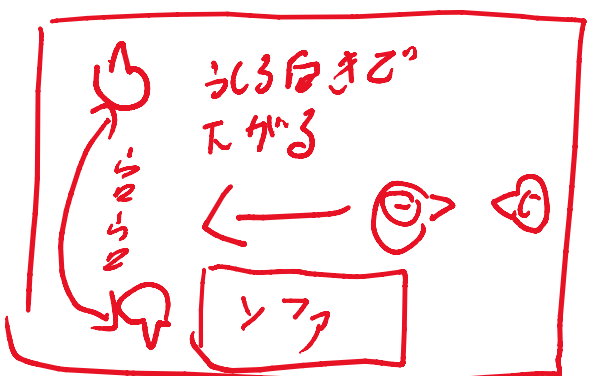
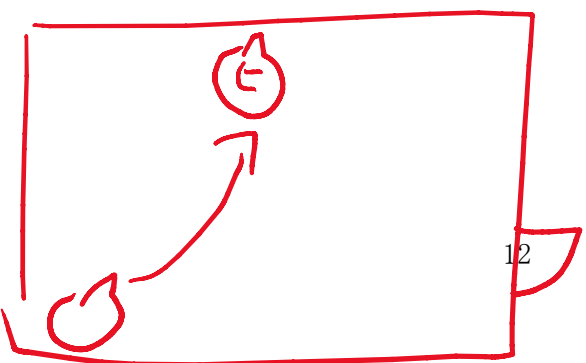
28 一色「そう、君と日下部の、結婚式の前撮り写真だよ。

29 あいつのために選んだ安物のドレスっていうのが
30 癪だったけど……

31 君の笑顔があんまり素敵だったから、

32 思わず額縁に飾っちゃった」

33



1 【ヒロイン「潤一のこと知ってるの？」】

2
3 【4 ヒロインの背中から耳元に】

4 一色「ん？ 日下部？ 知ってるも何も、

5 あいつは僕の部下だよ。

6 あいつから聞いたことない？

7 一色部長って」

8
9 【ヒロイン首を横に振る】

10
11 一色「そっか。きっと、君が僕のことを知ったら、

12 自分は捨てられるってわかってたんだね。

13 だって、君があいつと婚約してたのは、

14 まだ僕に出会ってなかったからなんだから」

15
16 【ヒロイン「どうかしてる】】

17
18 一色「んー？

19 そうだよ。僕はどうかしてるんだ。

20 日下部に君の写真を見せられた時から、

21 君のことが欲しくてほしくてほしくてほしくて。

22 寝ても覚めても、君の事しか

23 考えられなくなっちゃった」

24
25 一色「でも、我慢しようと思ったんだよ？

26 君の幸せが一番だから、

27 君が本当に幸せになれるなら、

28 日下部との結婚を祝福しようって……」

29
30 一色「でもさ……違ったんだ。

31 考えれば考えるほど、日下部は君にふさわしくない」

32
33 【ヒロイン「どういう意味？」】



1
2 【4 ヒロインの背中から耳元に】
3 一色「ねえ、日下部と出会った日の事、覚えてる？

4 君は会社で受けたセクハラで、
5 心がボロボロになっていた。

6 仕事をやめたくても、君の両親は頼れない。

7 だって君の両親は、君を傷つけるだけの存在だから」
8

9 【6 背後からヒロインの耳元で】

10 一色「そんな時に現れたのが、日下部だ。

11 あいつは傷ついて疲れた君の心の隙間に、
12 うまく入り込んだだけなんだよ」
13

14 【ヒロイン「どうして知ってるの？」】
15

16 一色「なんだって知ってるさ。君の事なら全部。

17 君が何に懂れてて、何が好きで、

18 日下部とどんなことでケンカして、

19 どうやって仲直りしたのか……」
20

21 一色「全部、僕があいつにアドバイスしてきたんだ。

22 会社のトラブルも、ゴミみたいな両親も、

23 うろたえて「どうしよう」って

24 言うことしかできない日下部に代わって、

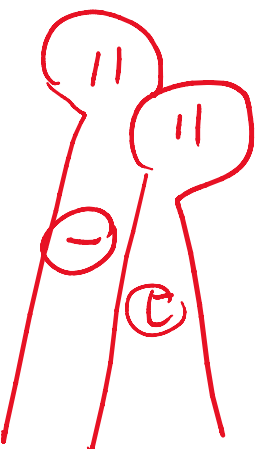
25 全部僕がどうにかしてきたんだよ。

26 ——だから僕が先に出会っていたら、

27 君は間違いない僕を選んだ。

28 そうだろう？」
29

30 【ヒロイン、異常者への恐怖で「違う」と言えない】
31
32
33



1 【6】少し離れて
2 一色「あ、ごめんごめん。
3 いつまでも元婚約者の話なんて、つまらないよね。
4 ドレス、窮屈でしょ？ 脱いで楽な格好になろうか
5 そのまま立ってて。
6 まず、腰の位置でドレスを固定してる紐をほどきます」
7

8 S E : 紐をほどく音
9

10 【5】

11 一色「眠ってる君に着せるために、
12 ちよっと仕立て直してもらったんだ。
13 “動けない人に着せるドレスにしたいんです” って
14 言ったら。すごく親切にアドバイスしてもらえたよ。
15 こうやって、紐をほどいてファスナーを
16 おろすだけで……」
17

18 S E : ファスナーおろす

19 S E : 重たい布の衣擦れ

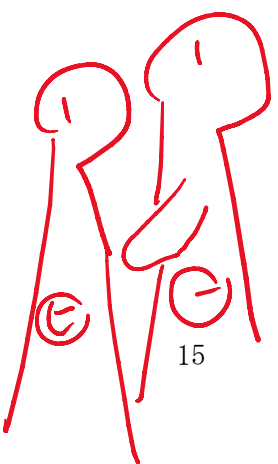
20 一色「ほら、簡単に脱げた。
21 寒い？ 僕の上着を貸してあげるよ。
22 温かいから」
23
24

25 S E : 衣擦れ

26 一色「結婚式、楽しかったけど疲れたねえ。
27 僕も向こうで着替えてくるよ。
28 ついでに飲み物とケーキ、用意するから。
29 君はそこに座って待ってて」
30
31

32 S E : 遠ざかる足音

33 S E : ドアの開閉



●トラック4 招待客

一色は別室に捕らえていた日下部とヒロインを引き合わせ、日下部を痛めつけつつ、彼の前でヒロインを陵辱する。

【ケーキを持って戻ってくる一色】

SE…ドアの開閉

【9】

一色「お待たせく！
じゃーん。

これ。君の大好きなケーキ屋さんに頼んで作ってもらった、特製のウェディングケーキ。本日二度目のサプライズだよ！」

SE…近づく足音

SE…ケーキをテーブルに置く

【8】

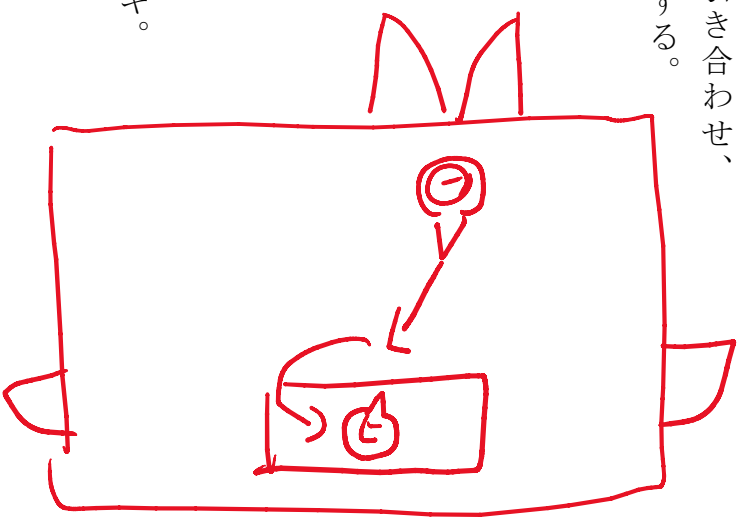
一色「ふたりで食べる用に小さめをお願いしたけど、かわいくて美味しそうですね？
メッセージプレートと、砂糖菓子のお人形も乗せてもらったんだよ♡」

SE…ソファに座る

【3】

一色「僕が食べさせてあげる。
ファーストバイトみたいで、ドキドキするね」

SE…ケーキにスプーン刺す



1 【3】
2 一色「ほら、こっち見て、あーんして」
3

4 【ヒロイン拒絶】
5

6 一色「どうしたの？ おなか空いてなかった？」
7

8 【焦り】もしかして、具合悪い？
9 ちよつと疲れちゃったのかな」

10 一色「じゃあ、何か欲しいものはある？」
11

12 してほしいことは？」

13 【ヒロイン「家に帰りたい」】
14

15 一色「家に？ うーん、困ったな……」
16

17 帰りたいてって言われても、
18 ここが僕らの家なんだ。

19 前の家に戻っても、何も残ってないよ？」

20 【ヒロイン「純一が待ってる」】
21

22 一色「日下部が……？」
23

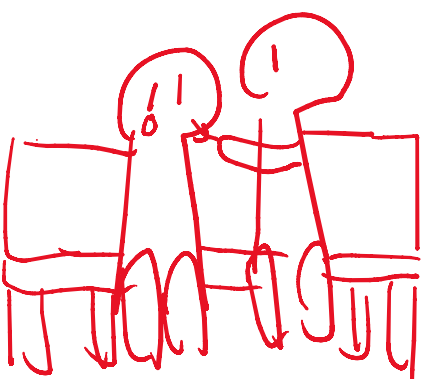
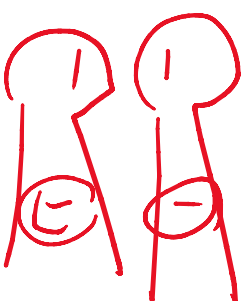
24 【困惑して笑いながら】いや、あいつは待ってないよ。
25 だって、今この家にいるし」

26 【ヒロイン、愕然として一色を見る】
27

28 【1】
29

30 一色【笑いながら】さすがに、
31 あいつを放っておいたりしないよ。
32 もし捜索願いなんで出されたら、
33 大騒ぎになるでしょ？」

君とまともにお出かけもできなくなる」



1
2 【1】

3 一色「だから、あいつには納得してもらわないと
4 いけないんだ。

5 君の運命の男は僕で、

6 日下部は偶然君の人生に居合わせただけの脇役だって。

7 そのために、説明……

8 っていうか、説得っていうか……

9 まあ、うん、わかってもらうつもり」

10

11 【ヒロイン「説得なんて無理に決まってる」】

12

13 一色「ん？ 説得、できないと思う？

14 本当に？」

15

16 一色「ふふ……いいよ、じゃあ賭けようか。

17 君は〃日下部は僕と君の関係を決して認めない〃に

18 賭けるんだね？」

19

20 【ヒロイン、うなずく】

21

22 一色「君が賭けに勝ったら、

23 僕は君と日下部の真実の愛を認めるよ。

24 僕が勝ったら……そうだなあ。

25 うーん……

26 いや、いいや。何もいらぬ。

27 この賭けはフェアじゃないもの」

28

29 【ヒロイン「どういう意味？」】

30

31 一色「絶対に僕が勝つから、

32 勝負にならない……って意味」

33

1 【1】
2 一色「僕はね、人を説得するのがすごく得意なんだ。
3 ほら、一色グループって大きいでしょ。
4 だから〃人の上に立つために〃って、
5 どうやったら人を説得できるか、
6 小さいころから教育されるんだ。
7 時間をかけて、誠心誠意説明して、
8 メリットとデメリットを比較させれば、
9 みーんな僕の提案を飲んでくれる」

10
11 【一色、立ち上がってヒロインの手を引っ張る】

12
13 【1↓9】 *立ちながら*

14 一色「おいで。一緒に日下部の部屋に行こう。」

15 【ヒロインに背を向けながら】部屋って言うか、
16 地下のワインセラーだけだね」

17
18 SE…足音

19 SE…ドア開く

20 SE…階段降りる

21 ※このSE…セリフの裏で流してください

22
23 【9 ヒロインに背を向けながら】

24 一色「君をここに連れてくる前、

25 日下部から〃出張が長引く〃って

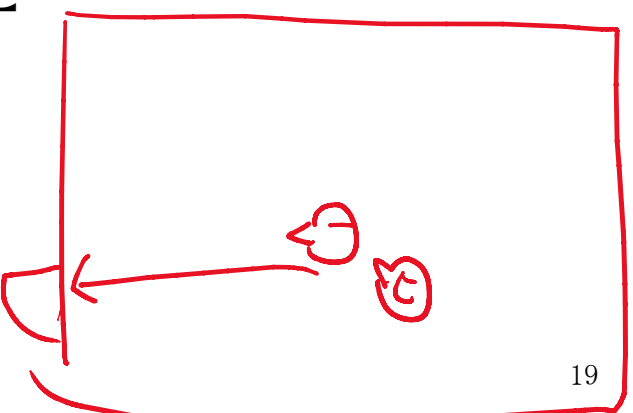
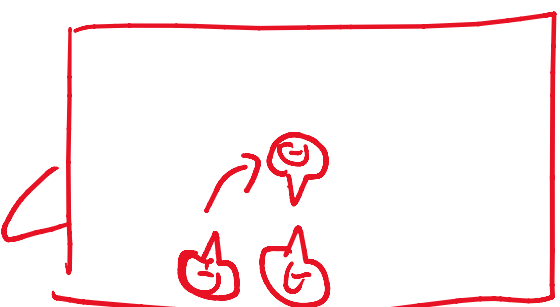
26 連絡があったでしょ」

27
28 【ヒロイン「田舎の取引先にあいさつに行くって」】

29
30
31 一色【「楽しいに」そうそう、田舎の取引先。

32 つまり、この家ってこと」

33



1 【9 ヒロインに背を向けながら】
2 一色「日下部がここに来たのは、昨日の夜なんだ。
3 あいつ、取引先に挨拶に来たはずが、
4 僕が出てきてすぐビックリしてたよ」

5
6 一色「菓を盛って、縛って、地下室に閉じ込めて……
7 そろそろ十五時間くらいかな？
8 かなり〃仕上がって〃きた頃だと思っから、
9 【ヒロインに振り向き】楽しみにしててね」

10
11 SE…このタイミングで階段を下りきる

12 SE…電気つける

13
14 【電気をつけるとワインセラーの真ん中に日下部が転がされ
15 ている】

16
17 【9 日下部を見ながら】
18 一色「おはよう日下部。〃
19 ちゃんと生きてる？」

20
21 【9 遠め 床から】
22 日下部【口にガムテ】んー！ んううー！

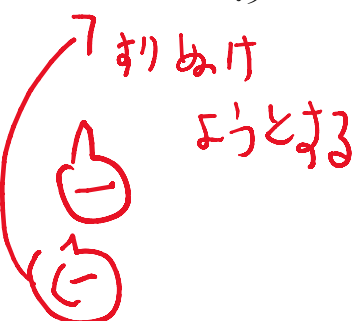
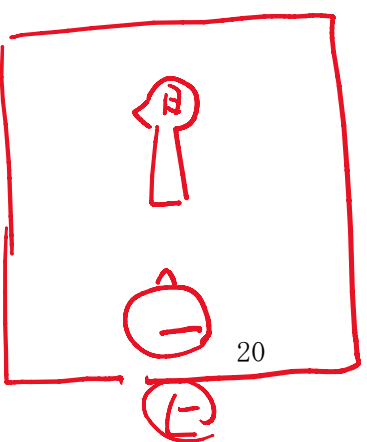
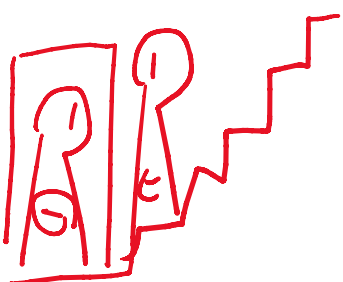
23
24 【日下部のうめき声、一式のセリフの裏でずっと流したいの
25 で長めをお願いします】

26
27 【ヒロイン、日下部に駆け寄ろうとするが、一色に抱きとめ
28 られる】

29
30 SE…走り出す

31 SE…抱きとめる

32
33



1 【4 背後から】
2 一色「おっと……ダメだよ、勝手に近づいたら。」
3 君はここで、賭けの結果を見届けるんだ」

4 【4 背後からひそひそ声で】
5 一色「君が邪魔をするなら、この賭けは無効になる。」
6 信じたいんだろ？ 日下部のこと。

7 大丈夫、あいつが本当に君の運命の王子様なら、
8 明日の朝には、君は日下部と二人でここを出て、
9 警察に駆け込んで僕を訴えられるよ。
10 さあ、君は後ろに下がってて【耳にキス】」

11 【一色、ヒロインを背後に下がるせる】

12 SE…衣擦れ

13 SE…一色が日下部に歩み寄る足音

14 【1↓9ヒロインに背を向けて】
15 一色「日下部く。」

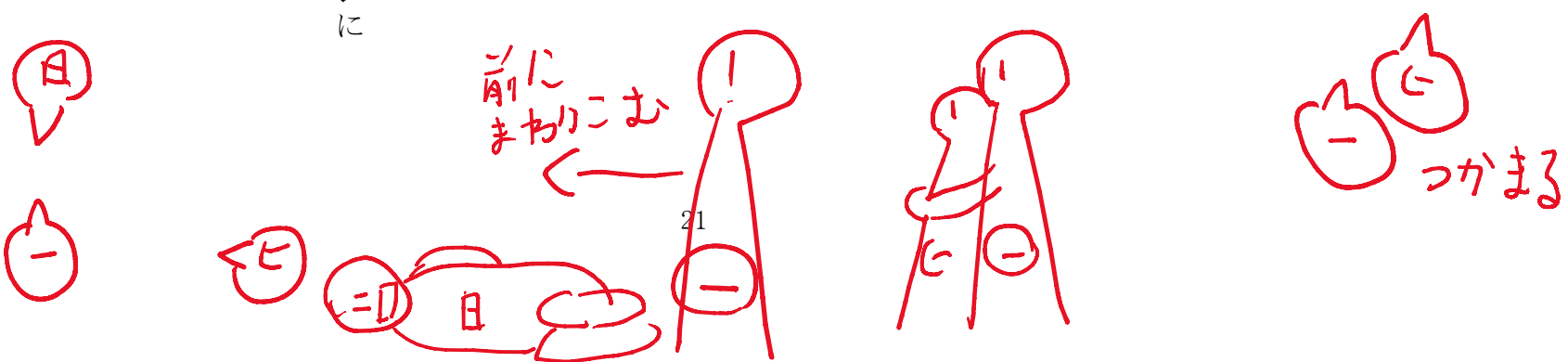
16 おまえ、いつまでうーうー言ってるんだよ。
17 ほら、今ガムテープはがしてやるから」

18 【一色、日下部のそばにしゃがみ込む。その際、ヒロインに
19 横顔を見せる立ち位置になる】

20 【9 横を見ながら】
21 一色「一気にいくよ。そーれ♪」

22 SE…ガムテバリバリ

23 【日下部は状況が理解できておらず、「一色が助けにきてくれ
24 た」と思っている】



【9】

目下部「目下部、わけがわからない状況に

取り合えず泣き叫ぶ」

あああああ！ うわあああ！ ああああああ！

【9 横を見ながら】

一色「落ち着け落ち着け。」

大丈夫だよ。深呼吸して、ほら、深呼吸〜」

目下部「はあ……はあっ……！」

ああ、部長……来てくれたんですね……！

ほ、ほどいてください……！

早く、縄をほどいて……！

これ、なんなんですか？

どうしてこんな……！」

一色「うんうん、わかるよ。怖かったよね。」

動けなくて、叫べなくて、体もあちこち痛いよね」

目下部【必死】わかってるなら早くほどいてくださいよ！」

一色「ん？ やーだ♪」

目下部「……は？

え？ なんで……だって……」

一色「お願いを聞いてくれたら、ほどいてあげる。

ねえ、あそこに君の婚約者がいるでしょ？」

【目下部、ヒロインを見る】

目下部「え……？ なんで、お前……」

ハァヒビ
重たいせん



1 【9 横を見ながら】

2 一色「僕が連れてきたんだよ。」

3 さつき二人きりの結婚式を終わらせたところだね。

4 でも、彼女がこう言うんだ。

5 “純一が私たちの関係を許すはずない” って」

6 一色「それで、相談なんだけど……」

7 彼女と僕の結婚を祝福するって、言ってくれる？」

8 【9 一色を見ながら】

9 日下部「は……？ いや、ちよつと……」

10 意味が分からないんですけど、

11 と、とりあえず、縄をほどいて

12 もらっていいですか？

13 そしたら話聞きますから」

14 一色【無視して】言えよ、日下部。

15 “彼女と一色部長の結婚を祝福します” って」

16 【日下部、一色の異常性を理解し「とりあえず言っというた方が正解だ」と考える】

17 日下部「か……彼女と一色部長の結婚を祝福します」

18 一色「嘘だね、信じない」

19 日下部「は!？」

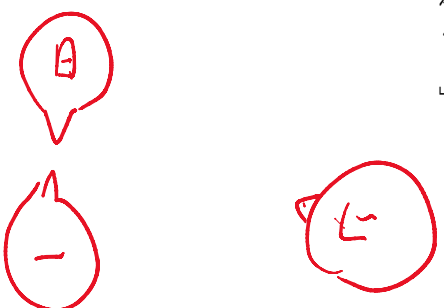
20 あ、あんたが言えって言ったんじゃないか！」

21 【9 横を見ながら】

22 一色「そしてお前は、逃げたいからそう言った。

23 でも、それじゃダメなんだ」

24 25 26 27 28 29 30 31 32 33



1 【9 一色を見ながら】

2 日下部「ちよつと、もう……

3 いい加減にしてくださいよ！

4 冗談にならないですよ、こんなの！

5 犯罪だってわかってるでしょう!？」

6 一色「犯罪にはならないよ。

7 お前が僕たちを祝福してくれればね」

8 9 日下部「だから、祝福するって言ってるじゃないですか！」

10 11 一色「んー……どうかな？

12 13 【ヒロインを見て】ねえ、どう思う？

14 日下部は本当に、君を諦めて

15 僕たちを祝福してくれてるかな？」

16 17 【ヒロイン「してくれてる」】

18 19 【9 ヒロインを見ながら】

20 一色「君もそう思う？

21 じゃあもちろん、君も日下部に未練はないよね？」

22 23 【ヒロイン「ない」】

24 25 【9 ヒロインを見ながら】

26 一色「そっか……

27 それなら、日下部の前で、僕にキスできるよね？

28 舌を絡める、あまくて、えっちで、濃厚なやつ」

29 30 31 32 33



1 【16 一色を見ながら】
2 日下部「……は？」

3 【震え】待ってください。
4 人前でキスなんて……彼女はそもそも、
5 そんなことできる性格じゃないんですよ……!!」

6 【ヒロイン、一色に歩み寄る】

7 SE…ヒロインの足音

8
9
10
11 【9↓1 近づきながら】
12 一色「そう？」

13 でも、彼女はしてくれる気みたいだよ。
14 お前が思ってるより、彼女は積極的なんだ」

15
16 【16↓15】
17 日下部「やめろ！」

18 そんなことしなくていい!
19 走って逃げて、警察を呼んでくれ!
20 それだけでいいんだ……!!」

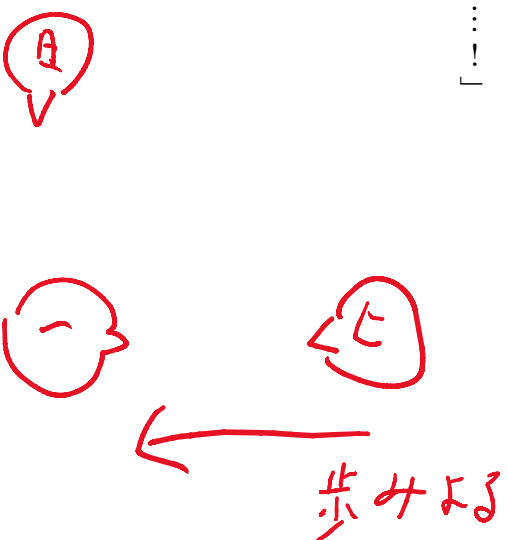
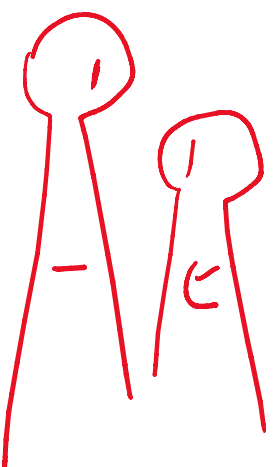
21
22 【1 ちらつと横を見る感じで】
23 一色「馬鹿だな。」

24 走って逃げることも、
25 警察を呼ぶこともできないよ。
26 ここがどんな田舎か知ってるだろ？」

27
28 【1】
29 一色「震えてるね……恥ずかしい？」

30 君の涙、凄くきれいだ。
31 口開けて、舌出して。
32 ん……ちゅ……」

33



1
2 【リップ音のみ三十秒程度お願いします】

3
4 一色「本当に、凄く積極的だね。

5 ねえ、それって僕のため？

6 それとも、日下部を守るため？」

7
8 【ヒロイン「あなたのため」】

9
10 一色「僕のため？ほんとに？嬉しいなあ♡

11 ね、今度は僕からキスさせて」

12
13 【リップ音のみ三十秒程度お願いします】

14
15 一色「ああ、君の体……柔らかくて、あったかい。

16 ぎゅーってさせて。ぎゅーって」

17
18 SE：抱きしめる衣擦れ

19
20 【3 耳元】

21 一色「ありがとう。君の愛情はすごく伝わったよ。

22 でも、日下部の方はどうか。

23 まだ君への未練を断ち切れてないみたいだ」

24
25 【日下部、ヒロインが頑張ってくれたのに、自分のせいで台
26 無しになってはいけないと思ひ慌てて一色に媚び始める】

27
28 【9 足元で】

29 日下部「そ、そんなことない！

30 そんな女未練なんてありません！

31 本当です！」

32
33



1 【1 日下部を見ながら】
2 一色「ふうん？」

3 まあ、今はそう言うしかないもんね。
4 でも、よかった。

5 つまりお前は、必要とあれば
6 婚約者を「そんな女」扱いできるやつってことだ。

7 愛とか感情とかよりも、
8 どうするのが正解かを考えられるってことだ。

9 偉いよ、日下部。

10 僕がいつも教えてる通りだ」

11
12 一色「で、ここからが本題。

13 お前さ、ずっと昇進したがってたよね？

14 自分が上に立ったら、ああしたい、こうしたいって、
15 酔っぱらって夢を語ってたよね？

16 お前が彼女を諦めたら、その夢を叶えてあげる」

17
18 【9 足元】

19 日下部「え……？」

20 それって、どういう……」

21
22 一色「暴力で奪うだけじゃ、ただの犯罪者だろ？

23 僕はお前に、きちんと納得してほしいんだよ。

24 彼女を諦めたほうがずっと得だって。

25 お前はこの先、いくらでも僕を利用していいよ。

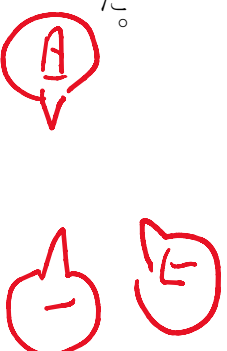
26 その代わり、彼女のことは忘れるんだ」

27
28 日下部「も……もちろんです。

29 忘れます、彼女のことは、全部！

30 だから、縄をほどいて……」

31
32
33



1 【1 日下部を見て】
2 一色「うん、いいね。いい返事だ。
3 でも、まだ信じられないな。
4 もう、お前が彼女になんの興味もないって、
5 どうやって僕に信じさせてくれる？」
6

7 【9 足元】
8 日下部「どうって……【泣く】わかりません。
9 どうやってたら信じてもらえますか？
10 俺、もう、どうしたらいいか……」
11

12 一色「じゃあ、例えば……
13 僕と彼女がここで愛し合っても、
14 お前は全然気にしない？」
15

16 日下部「……え？」
17

18 【1 16を見て】
19 一色「それじゃあ、そうだなあ。
20 ああ、そのソファがちょうどいいや」
21

22 【3 耳元】
23 一色「ねえ、僕たちの愛を、
24 日下部に見せつけてやろうよ。
25 君もそうしたいだろう？」
26

27 【ヒロイン、拒絶できる状況じゃないので承諾する】
28
29 【3↓9 ヒロインの手を引きながら】
30 一色「おいで」
31

32 【一色、ヒロインの手を引いてソファへ】
33



1 SE…足音二人分

2 SE…ソファに座る

3 【3】

4 一色「【耳にキス】ちゅ……ちゅっ。

5 緊張してる？

6 人前でなんて、初めてだもんね。

7 安心して。

8 あいつの存在なんて忘れられるくらい、

9 とびつきり優しく愛してあげるから……♡」

10 一色「【耳を舐めながら囁く】可愛い……」

11 ちゅ、れろ……ん……すごく可愛いよ。

12 ちゅ、ちゅ……

13 耳、こうされると感じるんだね。

14 身体、びくびくさせて……

15 ふふ、敏感なんだね。

16 じゃあ、君が喜んでくれるように、

17 もっともーっと舐めてあげる」

18 【耳舐め二十秒程度】

19 【3 耳元でささやく】

20 一色「ん……。力、抜けちゃった？

21 いいよ、そのまま僕に身体を預けて。

22 気持ちいいことだけ考えてて」

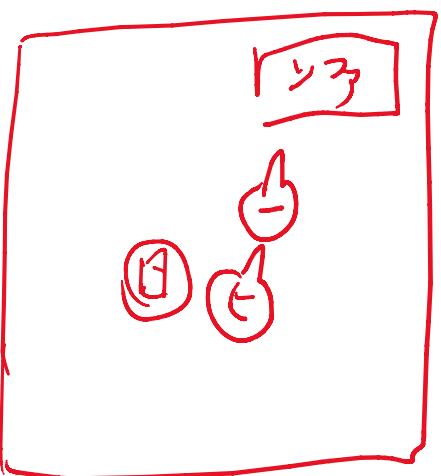
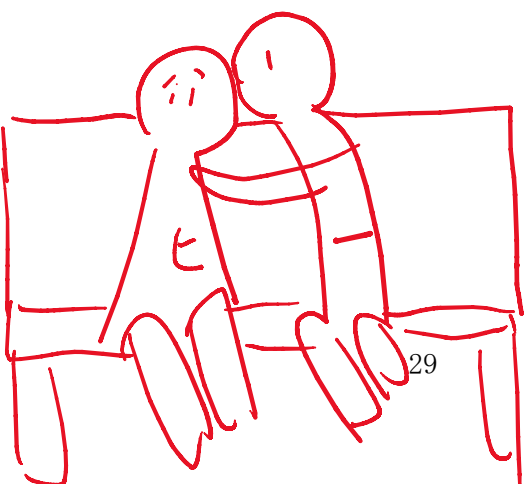
23 【1】

24 一色「服、脱がせるね」

25 SE…衣擦れ

26 32

27 33



1 【1】
2 一色「ああ……最高に綺麗だ。
3 おっぱい、食べちゃって良い？
4 良いよね、君は僕の花嫁さんなんだから♡
5 【下から】こうして強く吸って、しゃぶって、
6 はむ、ん、ちゅ……美味しい……」
7

8 【舐め音二十秒程度お願いします】

9
10 一色「気持ちいいでしょう。乳首、固くてコリコリしてる。
11 もっと僕に舐めてって、言ってるみたいだね」
12

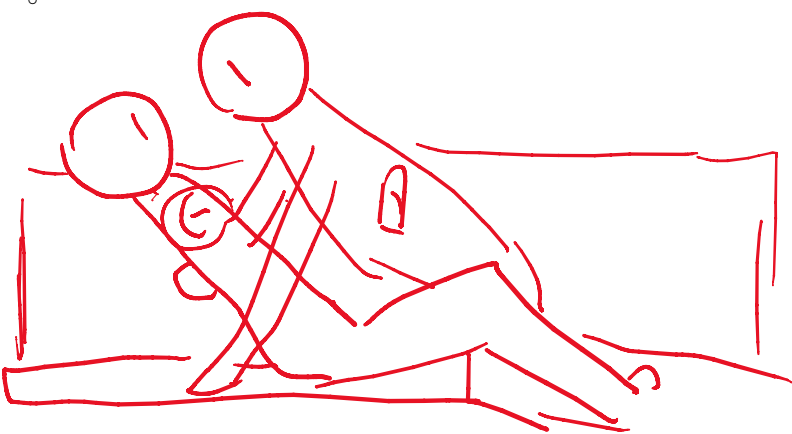
13 一色【胸舐めながら】ちゅっ、ちゅ……。
14 腰、びくびくって跳ねてるね。
15 それに、こんなに可愛い声をあげて。
16 こっちのおっぱいも食べてほしい？
17 いいよ、食べてあげる」
18

19 一色「赤ちゃんみたいにおっぱい吸われるのと、
20 舌で優しく舐められるのと、
21 どっちが好き？
22 それとも、こうして指で
23 つまんであげるのが嬉しいのかな。
24 ……全部好き？
25 ふふ、やーらしい♡
26 やらしくて、かわいくて、大好き。
27 んーちゅ……っちゅ。れろ……あーむ」
28

29 SE…ビクっとなる衣擦れ
30

31 【1】

32 一色「あは♡ 軽くいっちゃったね。
33 とろけた目して、最高に可愛い」



【7 耳元で】

1 一色「ね、濡れちゃった？
2
3 早く触ってほしい？
4 おねだり聞かせてほしいな。
5 ほら、足開いて、自分でくちゆくちゆして。
6 こっちも気持ちよくして、お願い♡って」
7

一色「言ってよ。お願い。」

9 お願い、おーねーがーい♡」

【ヒロイン、望まれるままに言う】

13 一色「あは♡ うん、いいよ。

14 いっぱい気持ちよくしてあげる。

15 奥まで指でかき混ぜながら、

16 一番敏感で気持ちいいところ、

17 舌と唇でいじめてあげる」

【9 下から】

20 一色「ふふ…：…おいしそ。

21 日下部はさあ、君にフェラはさせるけど、

22 ご奉仕はしてくれなかったでしょ？

23 “やんなきゃいけないんですかねえ”なんて、

24 馬鹿みたいに相談してきてさ。

25 僕なら、好きな女の子を気持ちよくするためなら、

26 なんだってやりたいのに」

28 一色「こうやって…：…ん。ちゅ、ちゅ…：…

29 んー…：…じゅるる…：…っ、れろ…：…

30 ああ、奥からどんどんあふれてくる…：…

31 指、すんなり入っちゃいそうだね。

32 ほら」

33



1 SE…指入れる水音

2

3 【9 下から】

4 一色「入ったよ。わかる？」

5

二本とも、根元までずっぽりだ。

6

体の内側から、気持ちいところ、

7

指でコリコリしてあげる」

8

9 SE…水音ぐちゅぐちゅ

10

11 一色「んー？ いったるの？」

12

指、ぎゅうぎゅう締め付けて……

13

気持ちいいねえ、イクの止まらないねえ。

14

もっともっとイかせてあげる。

15

ん、ちゅ……じゅるる……」

16

17 【舐め音1分程度】

18

19 【ヒロイン絶頂】

20

21 SE…潮吹き

22

22 SE…指抜く

23

24 一色「おっと。」

25

あーあ。潮吹いちゃうくらい、

26

気持ちよかったんだ？

27

ソファが君のエッチな汁でぐっしよりだ。

28

僕の顔まで濡れちゃった【唇ぺろり】」

29

30 【一色、改めてヒロインにのしかかる】

31

32 SE…体勢変える

33

1 【1】
2 一色「謝らなくていいんだよ。
3 君が気持ちよくなってくれて、凄くうれしい。
4 日下部は、君は感じにくいって言ってたってたけど……
5 やっぱり、あいつがへたくそなだけだったね」

7 【7 耳元】

8 一色「君がいっぱい感じてるところ、
9 あいつにも見せてやろ？
10 後ろから抱っこして、
11 君の気持ちいいところ
12 思いつきりえぐってあげる」

13 一色「ほら、僕の上ののって。
14 日下部によく見えるように、
15 大きく足開いて」

16 SE：体位変える衣擦れ

17 SE：ソファの軋み

18
19
20
21
22
23 【6 背後から】

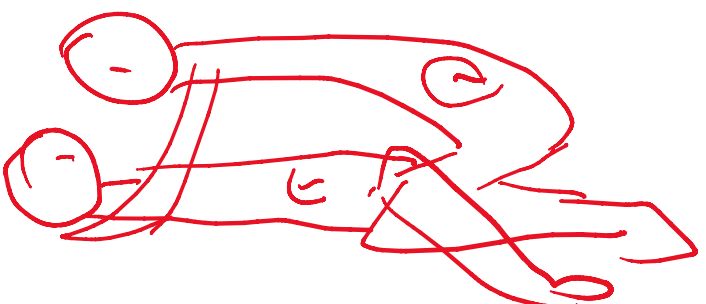
24 一色「ふふ。上手上手。
25 顔真っ赤だね。恥ずかしい？
26 大丈夫。このまま絵画に閉じ込めたいくらい、
27 キレイだよ」

28
29 SE：ファスナーおろす

30 SE：衣擦れ

31 SE：挿入音

32
33



1 【6 背後から】
2 一色「入れるね。力抜いて。
3 ゆっくり……ゆっくり」
4

5 SE…挿入音

6
7 一色「ん……っ、はあ……。
8 やっぱり、思った通りすごきつい……。
9 ごめんね、苦しいね。
10 もう少し我慢して。
11 ん、ああ……
12 はあ、はあ……。
13 ほら、全部入った……。
14 君の中、僕ではちきれそうになってる」
15

16 一色【耳や頬にキスしながら】
17 それじゃ、ゆっくり動くからね。
18 ん……っ、はあ……っ」
19

20 SE…ゆっくりピストン

21
22 一色「熱くて、ぬるぬるで、気持ちいい。
23 中、うねってるの自分でわかる？
24 僕のに絡みついて、離さないって
25 言ってるみたい。
26 こうやって、クリもいじりながら」
27

28 SE…指でいじる水音ずっと流す

29
30
31
32
33

1 【6 背後から】

2 一色「奥まで入れて……抜いて……

3 いれて……抜いて……

4 気持ちいいね。気持ちいい。

5 ほら。口開けて。

6 ベロチューしながらだと、

7 もっと気持ちいいから」

8 【キスハメ息づかいのみ30秒程度】

9 【7 背後から耳元で】

10 一色「ん？ どうしたの？

11 腰、もどかしそうに動いちやってる。

12 もっと早く動いてほしい？

13 いいよ。じゃあ、これくらいかな？」

14 SE…ピストン100BPM程度

15 一色「はあ、はあ……！

16 声、凄くえっちでかわいいね。

17 この、おへその裏側のところ、

18 トントンってされるの好きなんだあ。

19 ほら、トン、トン、トン、トン」

20 一色「イっちゃう？ イっちゃいそう？

21 いいよ、イって。

22 イっちゃえ。イっちゃえ。

23 トン、トン、トン、トン。

24 トン、トン、トン、トン。」

25 SE…ヒロインがもがくソファの軋み

26
27
28
29
30
31
32
33



1 【7 背後から耳元で】

2 一色「ほーら、イっちゃった。

3 でも、まだ頑張れるでしょ？

4 もう一回♡ もう一回♡

5 トン、トン、トン、トン。

6 トン、トン、トン、トン。

7 んー？ “いや？” 何が？

8 こんなに喜んでるのに……

9 嘘つきだね。悪い子だ」

10

11 一色「お仕置きにガン突きしてあげる♡

12 いくよ？ ほーら……！！」

13

14 【吐息のみ、激しめで一分程度】

15

16 SE：ピストン150BPM程度

17

18 【ヒロイン絶頂】

19

20 SE：ピストン止める

21

22 一色「あははっ。

23

23 すごいイキっぷり。

24

24 見なよ、日下部も驚いてる。

25

25 あいつの前では、

26

26 こんな風にイった事なかったものね？

27

27 いつも自分だけ先にイっちゃって、

28

28 セックスなんてこんなものって、

29

29 思わされてたんだよね？」

30

31

32

33

1 【3 背後から耳元で】
2 これからは僕が本当に気持ちいいセックスで、
3 毎日毎日可愛がってあげる」
4

5 一色「今度は一緒にイこう。」

6 両方の乳首きゅーってつねりながら、
7 君の一番奥をゴツゴツえぐってあげる。
8

9 【囁くように】想像した？

10 僕の言葉だけで、君の中、きゅうきゅうしまってる。

11 ああ、気持ちいい……

12 もう、我慢できないや。

13 動くね、思いつき……り！」

SE：ピストン200BPM程度

14 【3 背後から耳元で】

15 息づかいのみ1分程度お願いします」
16
17
18

19 【3 背後から耳元で】

20 一色「ああ、すごい……

21 そんなに絞めたら、僕も、もう……！

22 ああ、出る……出ちゃう……

23 ね、中に出していいよね？

24 中に出すよ、一番奥で……！

25 はあ、はあ、あ、ああ……ああ……！ 【射精】

26

27 一色【息を整えながら】

28 はあ、はあ……。

29 ああ……すっごくよかった。

30 ビックリしちゃった。

31 体の相性まで、こんなにピッタリなんて」
32
33

【9を見ながら】

1 一色「あー…：…：…：そういえば、
2 途中から日下部の存在忘れちゃってた（笑）
3 ごめんごめん。
4 汗いっぱいいかいちゃったし、
5 僕は彼女をお風呂に入れてくるよ。
6 ほら、おいで僕の花嫁さん。
7 腰、くたくたになつて歩けないでしょ？
8 僕が連れて行ってあげるから。
9 よつと…：…：」
10
11
12

【一色、ヒロインを抱いて立ち上がる】

SE：ソファきしむ

【3】

17 一色「ねえ、日下部。
18 僕が彼女と愛し合ってる間、
19 静かにできて偉かったね。
20 今のお前となら、建設的な話し合いができそうだ。
21 彼女を寝かせて、戻ってきたら、また少し話そう。
22 その時縄もほどくし、
23 ビールとソーセイジでも用意してあげるから、
24 楽しみに待ってなよ」
25

SE：足音フェードアウト



38

足元へトに
日下部

●トラック5 祝電

朝、目が覚めてダイニングに向かうと、一色と日下部が朝食を用意して待っている。
日下部は二人を祝福し、今日から二人で普通に出社することをヒロインに告げる。

場所…一軒家
時間帯…朝

SE…小鳥のさえずり

SE…ヒロインの足音

【ヒロインが玄関に行くと、日下部と一色が出勤の準備をしている】

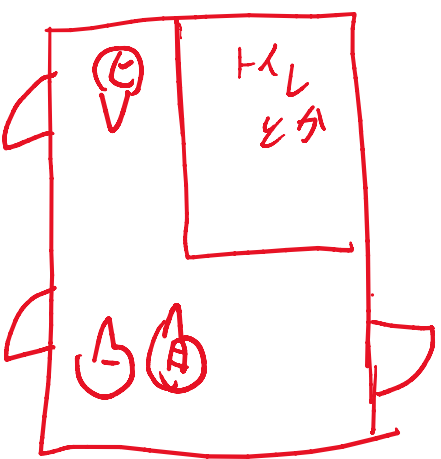
【9】
一色「あれ？ おはよう。もう起きてきちやったの？
随分早起だね。」

昨日は疲れただろうし、
昼過ぎまで起きないと思ってた」

【9】
日下部「部長。あと十分出ないと、
予約の新幹線間に合いませんよ」

【9】
一色「少し拗ねて」わかってるけど、
僕たちは新婚なんだよ？
夫の見送りに出てきてくれた奥さんと、
ちよっとくらいイチャイチャ
したっていいじゃないか」

【ヒロイン「二人で出社するの？」】



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33

SE: 衣擦れ

【9】

一色「ん？ ああ……そうだね。

もう日下部は閉じ込めておかなくても大丈夫。

昨晚二人きりで話し合って、

日下部が心から僕たちを祝福してくれてるって、
信じるのができたから」

【9】

日下部「そりゃあ、婚約者を諦めるだけで、

将来が約束されるんですよ？

俺は別に運命とか信じてないし……

出世すれば新しい婚約者なんて

選びたい放題だし。

おまえだって、俺より一色部長と

結婚した方がいいって思い始めてるだろ？」

一色「そうそう。

僕には君の代わりなんて存在しないけど、

日下部は君以外とでも幸せになれるからね。

前から会社の美人さんに鼻の下伸ばしてたし。

結婚しても不倫に走ってたんじゃないかなあ」

日下部「そんなことありませんよ！

人間き悪いなあ。」

一色「ね、こっちききて。

出かける前に、ぎゅってさせて」



SE: 近づいてくる足音
SE: 抱きしめる衣擦れ

1
2
3 【3 抱きしめる距離感で】
4 一色「はい、ぎゅーっ♡」

5 【3 耳元でささやく】
6 一色「ねえ、こう思ってる？」

7 “ここを出たら、彼は警察に
8 通報してくれるに違いない”って。
9 僕の説得を受け入れたふりをしてるだけだって。
10 もしそうだったら、今日中に
11 ここに警察が来るだろうね”

12
13 【一色、ヒロインから離れる】
14

15 【1】
16 一色「楽しみだね、賭けの結果。
17 僕は明日の朝、またここに帰ってくるから、
18 それまで賭けのスリルを楽しんで♪」
19

20 SE:遠ざかる足音

21
22 【9 ヒロインを見て】
23 日下部「じゃあ…：俺たちそろそろ行くよ。
24 一色部長なら、絶対お前を幸せにしてくれるから。
25 これが全員にとって一番いいんだ」
26

27 【一色、日下部、ヒロインに背を向ける】
28

29 【9 横を向いて】
30 日下部「っていうか、なんの話ですか？ 賭けって」
31

32 【9 横を向いて】
33 一色「んー？ 内緒」



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33

SE…靴を履く音二人分

SE…ドア開く

【9 肩越しにヒロインに振り向く】

一色「あ、そうそう。」

玄関の鍵は中からは開けられないようになってるんだ。

食べ物や地下の貯蔵庫にいっぱいあるから、

僕が帰ってくるまで自由に過ごしてて。

じゃあ、行ってきます♡」

SE…ドア締まる

SE…鍵のかかる音

●トラック6 たいま

2 日下部は家を出たが、警察がヒロインを助けに来ることはな
3 かった。

5 場所…一色の家

6 時間…昼

8 SE…遠くで聞こえるパトカーの音

9 SE…玄関の開閉

11 【一色が帰宅すると、ヒロインが玄関で警察を待っている。
12 しかし一式が返ってきたのを見て絶望する】

14 【9 2歩ほど離れて】

15 一色「ただいま…っつと！

16 玄関で僕を待っててくれたの？

17 嬉しいなあ〜！

18 ん？ ああ、さっきのパトカー？

19 なんか、そこで事故があったみたいでさ。

20 交通規制もかかってて、

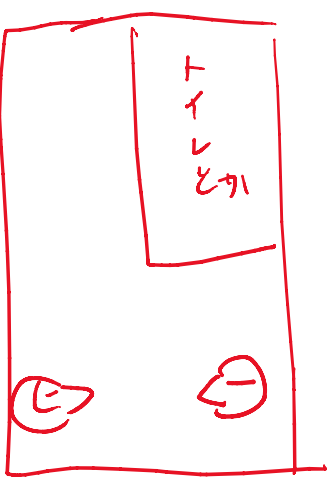
21 ちよつと帰りが遅くなっちゃった。

22 寂しかったよね？

23 はい、ただいまのハグ♡」

25 【一色、ヒロインを抱き寄せる】

27 SE…抱き寄せる衣擦れ



1 【3 耳元で】
2 一色「賭け、僕の勝ちだったね。
3 日下部は君との幸せな未来より、
4 ほかの誰かと過ごす輝かしい未来を選んだ」
5

6 【ヒロイン、泣く】
7

8 一色「ああ、よしよし泣かないで。

9 かわいそうに……

10 辛いね、悲しいね、悔しいね。

11 君は本当に、心から日下部を信じてたのに、

12 こんなに簡単に裏切るなんてあんまりだよね」
13

14 【ヒロイン「あなたのせい」と泣く】
15

16 一色「そうだね、僕のせいだ。全部僕が悪い。

17 だから償わせて。

18 約束するよ。

19 他の誰が君を捨てても、

20 僕だけは君を選び続けるって。

21 いくらでも試していいよ。

22 死ぬほど僕を困らせて、苦しめて、

23 君が今までの人生で受けた苦しみを

24 全部僕にぶつければいい」
25

26 一色「そして、誰よりも幸せになればいい。

27 君をないがしろにした両親よりも、

28 君をいじめた会社の奴らよりも、

29 君を捨てた日下部よりも。

30 僕が君を、世界で一番幸せなお姫様にしてあげる。」
31
32
33

1 【1 顔を覗き込みながら】
2 一色「優しく】愛してるよ。
3 本当に愛してる。
4 ねえ、キスしていい？
5 キス、するね……」
6
7 【リスナーに「まだキスすんの！？」と思ってほしいので、
8 執着を感じるディープキス1分程度】
9
10 【1】
11 一色「はあっ、ちゅ、ちゅ……っ。
12 【キスここまで】っ、ああ、ごめんね……。
13 息、しにくかったね」
14
15 一色「このまま、君をベッドに連れて行っていい？」
16
17 【ヒロイン「だめ」】
18
19 一色「ダメ？ そっか。
20 ……いいよ。我慢できる。
21 君がその気になるまで、
22 いくらでも待てるから」
23
24 【ヒロイン「お風呂が先」】
25
26 一色「【きょとんとして】お……ふろ？
27 え？ あ、ああそっか！
28 僕、帰ってきたばかりで汗臭いもんね！
29 ごめん、僕、がつついて……
30 はずかしいな。
31 急いでシャワー浴びてくるから——」
32
33

1
2 【ヒロイン「鍵かけ忘れてる」】

3
4 【1】

5 一色「え？ ああ、ドアの鍵？

6 んー……そうだな」

7
8 SE…鍵のちやりって音

9
10 一色「僕の代わりに鍵、かけておいて。

11 今日から家の鍵は君の物だ。

12 だって、君は僕の奥さんなんだから……ね？」

13
14 【ヒロイン「逃げるかもしれないのに？」】

15
16 一色「ふふ。君はもう逃げないよ。

17 というか……いいんだ、もう。君は逃げても。

18 君が逃げても、僕は君を愛し続けるし、

19 君のためになることをし続ける」

20 ね？ 僕って都合のいい男でしょ？」

21
22 【7 耳元で】

23 一色「ベッドで待ってて。

24 僕の奥さん【耳にキス】」

25
26
27

28
29
30

31
32

●トラック7 初夜

鍵を受け取っても逃げなかったヒロインと、自分を受け入れてくれたヒロインを見て泣くほど嬉しい一色の幸せな一夜。

【風呂上がりの一色が寝室に行くと、ヒロインがベッドで待っており、一色は安堵と喜びをあふれさせる】

SE…ドアの外からの足音

SE…ドアが開く

【9】

一色「あ……」

【立ち尽くし一色に、「どうかした？」とヒロイン】

一色「ううん。ただ、幸せだなと思って。

君がそうして、僕を待っていてくれてるの。

何度も、何度も想像したけど……

本当にそこにいる君を見ると、

想像なんかと比べ物にならないくらい幸せだ」

SE…近づいてくる足音

SE…ベッドのきしみ

SE…衣擦れ

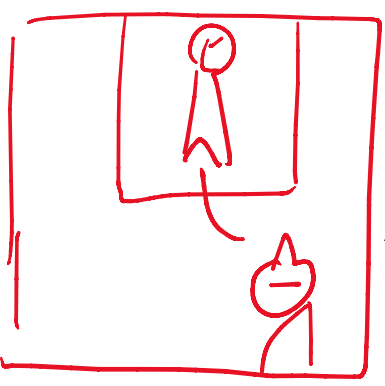
【1】

一色「ほら、僕の胸に触ってみて。

心臓のところ。

ドキドキしてるの、わかる？

君の心臓も、触っていい？」



1 【1】
2 一色「ああ……君は心臓の音までかわいいなあ。
3 どうして今まで、君に出会えなかったんだろう。
4 僕が誰より先に君と出会いたかった。
5 それで、世界の嫌なこと全部から
6 君を守ってあげたかった」

8 【次のセリフの途中で、ヒロインからキスされる】

9
10 一色「愛してるよ。
11 愛して……んう……っ」

12
13 【キスの息遣いのみ10秒程度】

14
15 一色「び、ビックリしたあ。
16 君からキスしてくれるなんて……。
17 うん、ごめん。おしゃべりしすぎだね。
18 足、開いて」

19
20 SE:衣擦れ

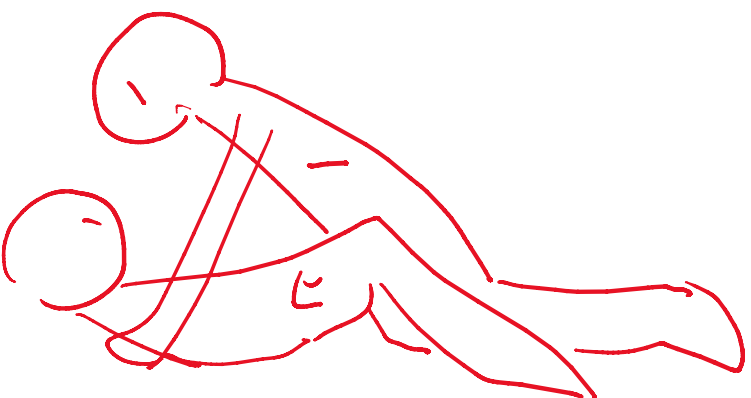
21
22 一色「ああ、きれいだ。
23 触ってもないのに濡れて、
24 僕の事を誘ってる」

25
26 【1↓3耳元】

27 一色「早く君の中に入りたいけど……
28 もう少し濡らそうね。
29 こうやって……」
30

31 SE:水音めつくりめにねちねち流し続ける

32
33 【一色、ヒロインに覆いかぶさり素股始める】



1
2 【3 耳元】
3 一色「中には入れないで、
4 入り口でくちゆくちゆ、くちゆくちゆ……
5 君の一番気持ちいいところ、
6 僕のでいっぱいこすってあげる」
7

8 一色「気持ちいい？
9 おっぱいもいじめてあげる。
10 きゅーってつまんで……
11 カリカリ、カリカリって……
12 感じてる君、カワイイな。
13 かわいい、かわいい。
14 耳も真っ赤になって……食べちゃいたい」
15

16 【耳舐め、長めに1分程度お願いします】
17

18 SE:びくつとなる激しめの衣擦れ
19

20 【1】
21 一色「イっちゃったね♡
22 でも、物足りないよね。
23 君のここ、早く中に欲しいってヒクヒクしてる。
24 【甘えて】ねえ、入れてって言って。
25 奏、愛してる。中に入れてって」
26

27 【ヒロイン、言う】
28
29 一色「嬉しいな。
30 ほら、僕の首に腕を回して。
31 ゆっくり入れるから……ん……ああ」
32
33

1 SE…ゆーっくり挿入音

2 SE…水音

3
4 【7 耳元】

5 一色「奥まで入った……この前より、ずっと深い」

6
7 SE…ピストンゆっくり

8
9 【吐息のみ30秒程度】

10
11 一色「はあ……ああ……。

12 やばい……こんなにゆっくりなのに、

13 すごい気持ちいい……

14 ぎゅっぎゅっしてしまっ……

15 どうしよう……

16 君も気持ちいい？

17 声、我慢しないで。

18 聞きたいんだ、君の可愛い声」

19
20 SE…ピストン徐々に速度上げて

21
22 一色「ふー、ふー……っ。

23 ああ、可愛い、好きだ……。

24 愛してる……

25 愛してる愛してる愛してる

26 愛してる愛してる……！」

27
28 【吐息声のみ一分程度お願いします】

29
30 一色「はあ、ああ……！」

31 すごい、中、ドロドロなのにきつく……！

32 もう、出すよ……君の、一番奥に……！

33 【フィニッシュ】く、うう……っ」

1
2 【7↓1】
3 一色「息整える」はあ……はあ……。ふうー。
4 ……あれ？ 泣いてるの？
5 痛かった？ 嫌だった？」

6
7 【ヒロイン、首を左右に振る】
8

9 【1】

10 一色「違うの？」

11 じゃあ、気持ちよすぎて泣いちゃった？

12 あはは。かわいいなあ。

13 こっち見て。涙、舐めてあげる。

14 【涙舐め】ん、ちゅ……。

15 ふふ、しょっぱい。

16 けど、甘いな……。好きな人の涙は甘いって、

17 本当だったんだ」

18
19 一色「ねえ、もっとしてほしい？」

20 何もわかんなくなるくらい、

21 ぐちゃぐちゃになりたい？」

22
23 【ヒロイン、うなずく】
24

25 一色「いいよ。僕もまだまだ、君とつながっていたいから。

26 でも、ちよっと疲れたよね？

27 ほら、うつぶせになってごらん。

28 枕を抱いて、楽な姿勢になって」
29

30 SE…体勢変える衣擦れ

31 SE…ベッドの軋みなど

32
33



1 【5】
2 一色「このまま、後ろから奥まで、一気に……」
3

4 S E…挿入音
5

6 【5】

7 色「んっ、ふう……。すんなり入ったね。

8 うつぶせになってると、

9 僕がどこまで入ってるかさつきより

10 よーくわかるでしょ？

11 ここまで抜いて……。ここまで入る。

12 あはは、だめだよ、腰浮かせようとしたら。

13 僕がこうやって、ぎゅっと押さえつけてあげる。

14 その方が、ぐりぐりされて気持ちいいから。

15 ほら、タン、タン、タン、タン、タン♡気持ちいいね♡。

16 タン、タン、タン、タン」

17 S E…セリフに合わせて水音&肉を打つ音
18

19 【6 背後から耳元に】
20

21 一色「もうイっちゃった？ ゆっくり動いてるだけなのにな？

22 じゃあ、激しくしたらどうかね……

23 ほら、こうして腰を大きく引いて、

24 一気に奥まで押し込むと……！

25 【台詞終わりに突き込む】
26

27 【ヒロイン絶頂】
28

29 一色「あは、またイっちゃった♡

30 奥を突くたびにイっちゃうの？

31 じゃあ、いっぱいイキ狂えるね。

32 僕も頑張るから……っさ！

33 ほら、ほら、ほら……！！」

SE…ピストン200BMP程度

【6 背後から耳元に】
一色「はあ、はあ……！ ああ、そうだね……！

イッてるねえ……！
大丈夫、やだやだ言っても……！
やめないから♡
このまま……もーつと……気持ちよくなる♡」

【終わりに向かう吐息のみ一分程度お願いします】

一色「ああ、出る……っ……！

僕も、もう……！

はあ、はあ……ああ……【射精】

【うつぶせでへ立ってるヒロインのうなじにキスする】

【5から6のあたりに散らす】

一色「はあ……はあ……

すごい……人生で一番きもちよかった。

【ヒロインのうなじにキス】んー……

ちゅ、ちゅ……」

【一色、ヒロインの横に横たわって抱き寄せる】

SE…ベッドの軋み

SE…衣擦れ

【5→7】

一色「おいで。腕枕させて」



【7】

一色「よしよし、疲れたね。」

眠って大丈夫だよ。

頑張ってくれてありがとう。

それで、目が覚めたら……

そうだな、君とデートに行きたいな。

君が行きたいところ全部に連れて行ってあげる。

海でも、山でも、海外でも……

子供が欲しくなったら作ってもいいし、

ずっと二人きりで過ごしてもいいし

君がしたいこと、してほしいこと、

二人で一つずつ見つけて行こう」

13

一色「楽しみだな……これからの僕の人生には、

ずっと隣に君がいる。

幸せだよ。本当に幸せだ。

僕と結婚してくれてありがとう。

大事な大事な、僕の花嫁さん【額にキス】」

18

19

20

Fin.